

ひ孫は7人！ やしやごも生まれた

青山操さん100歳の誕生日

青山操みさおさんが、昨年の12月31日(木)に100回目の誕生日を迎えました。1月5日(火)には、濱館町長が青山さんの入所する特別養護老人ホーム「幸」を訪れて、顕彰状などが手渡されたほか、家族や施設職員からも特製ケーキや記念品が贈られました。

この日は長男の妻のレイ子さんと孫の成田千恵香さんが駆け付けて、一緒に長寿を喜びました。

操さんは、地域の行事に積極的に参加していたようで、町の民生委員も長く勤めていました。

レイ子さんは「何事もよくよしないので前向きだったことが長寿につながったと思う」と話しました。

千恵香さんは「自慢の祖母。昨年やしやごが生まれ、新型コロナウイルスが落ち着き、会えるまで元気でいてほしい」と呼びかけました。



冬に集う新成人！

感謝と決意を胸に

1月10日(日)、総合文化センター「パルナス」で成人式が開催され、対象者93人のうち36人の新成人が参加しました。例年、8月に開催されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっていました。開催にあたって、直近2週間の健康状態などを記した書類の提出を求めたほか、会場内では検温と手指消毒、マスク着用、新成人以外の立ち入り制限、開催時間短縮などの感染症対策が徹底されました。

第1部で米塚教育長は「町で生まれ、町で育った皆さんが輝かしい道へと進むことを願っています」と式辞を述べ、濱館町長は祝辞で「コロナ禍で様々なことを考えたと思うが、その『考える』ことを止めないで糧かてにしてほしい」とエールを送りました。新成人を代表して下山睦斗ぼくとさんが「この日を忘れることなく、次世代を担う者として精進します」と誓いました。

第2部では、町イメージアップ大使の横山ひできさんが、この日のために率いてきた「横山ひでき一座」による三味線演奏が行われました。国内トップクラスの演奏者を交えたステージに新成人たちは聞き入っていた様子でした。

式典前後には、友人との再会を喜ぶ姿や写真を撮る姿が見られ、坂本るなさんは「一生に一度の大切な日。開催に感謝している。友人と会えてうれしかった」と笑顔を見せました。



集合写真撮影時のみマスクを外した

叔父と盲導犬との日常を綴る

金山君が内閣府特命担当大臣賞

障 害のある人への理解を深めようと、内閣府と各都道府県が主催する今年度の「心の輪を広げる体験作文」で、金山聖渚君(薄市小6年)が小学生部門で内閣府特命担当大臣賞(優秀賞)に輝きました。12月9日(水)には青森県庁で表彰を受け、17日(木)に濱館町長へ喜びの声を伝えるに訪れました。

作文では、叔父と盲導犬「ユアラ」との日常が描かれ、とある飲食店で盲導犬の入店を断られた残念なエピソードもあり、「ぼくとおじとユアラと一緒にどこへでも行ける日がくることを願っています」と締めくくられています。

金山君は「こんな素晴らしい賞を貰えるなんて。盲導犬はすごく賢くて、目が見えない人を助ける存在だと知って欲しい」と思いを語りました。



町内の小中学生にぜひ一読を

納税貯蓄組合連合会が本を寄贈

納 税の大切さと税金への理解を広めようと、町納税貯蓄組合連合会(会長・下山稲昭)が12月21日(月)に米塚教育長を訪問し、町へ本を寄贈しました。

町納税貯蓄組合連合会では今回、租税教育推進と子供たちが社会への理解を深めることができるようにと、税をテーマにした本を寄贈することになりました。

下山さんは「日常生活で目にしたもののなかで、何にどんな税金が使われているのか考えるきっかけになって欲しい」と話し、米塚教育長は「お金を使うときの心得となる本。ありがとうございます」と感謝の言葉を述べました。今回寄贈された本は、町内の各小中学校へ贈られました。



縁起物を自分の手で

公民館で門松作り教室

正 月に家の門の前などに飾る門松をつくる体験教室が、中央公民館で12月23日(水)・24日(木)に開かれ、45人が参加しました。

参加者たちは、3本の竹にむしろを巻いたものを荒縄でしめ、松の葉で囲って高さ約70cm、直径約20cmの門松を1時間ほどで作りました。

2人の孫を連れて参加した古川春彦さんは「孫と一緒に試行錯誤したが楽しかった。冬休みの思い出になってほしい」と顔をほころばせて話しました。



新年のあいさつを年賀状で

町内在住外国人対象の日本語教室

日本の文化をもっと知ってもらおうと、青森大学国際交流センターと町が12月25日(金)に総合文化センターパルナスで「にほんごカフェin中泊」を開催しました。

このカフェは町内在住の外国人を対象に行われ、この日は技能実習生として働くベトナム人16人が参加し、日本の正月をテーマにカルタ遊びや、スタンプを使った年賀状づくりなどを体験しました。

指導にあたった青森大学総合経営学部准教授の石塚ゆかりさんは「町民の皆さんが思っている以上に身近で生活している外国人がいる。交流の機会が増えて欲しい」と話し、このカフェをきっかけに双方向の異文化交流へ期待を寄せました。



どんなに寒くても健脚健在

元旦マラソンで走り初め

新年のスタートダッシュを決める元旦マラソンが今年も開催され、1月1日(金)に健脚自慢たちが体育センターに集い“走り初め”をしました。

濱館町長もかけつけて「昨年は新型コロナで大変な1年だった。新型コロナに打ち勝てるよう、いいスタートを切ってほしい」とあいさつしました。

参加者たちは開始の合図と



もに颯爽と走り出し、津軽中里駅までの約3キロのコースを駆け抜けました。

トップでゴールした佐藤風雅さん(弘前実業高3年)は「耳の感覚がなくなるような寒さだったが、良い走りが出来たと思う」と笑顔を見せました。

焚き上げた炎を見つめて

祈りをこめてどんと焼き

正月の飾りや注連縄、破魔矢、お守りなど古くなった縁起物を持ち寄って、1か所に積み上げて燃やすお正月の火祭り行事「どんと焼き」が、1月9日(土)にB&G海洋センター隣の特設会場で行われました。

参加した人たちは、無病息災や五穀豊穰などを祈願し、立ち上がる炎に向かって手を合わせていました。

